

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ

2022年3月13日(日)

黒田 禎一郎

主 題：「愛する子どもたちへの言葉」

—イエスの十字架—

テキスト：1ヨハネ2章1～2節

はじめに

- ・ 日本文化の中に「話芸」というものがあります。「話芸」で代表的なものは、なんと言っても「落語」でしょう。「落語」は約250年前に始まりました。1人の話者が何役もこなし、実に見事な話芸であります。また関西では約100年前から「漫才」が始まりました。これは2人の人が掛け合いで滑稽な話をかわす演芸です。最近では、「福音落語」という新しいジャンルも生まれてきました。
- ・ これら（落語、漫才）はいずれも言葉を交わす「話芸」であります。そして多くの人々に笑いを届けてくれています。そこで、常に話題となるのは呼びかけです。「お～い」とか、「お前さん」とか、「〇〇さん」と言って、相手に呼びかける言葉です。
- ・ 呼び掛けは、相手に語りかける始まりであり、名前を挙げることによって、相手の注意を引く語りかけです。つまり、呼びかけによって話はスタートします。
- ・ 皆さん。第一ヨハネの手紙を注意して読まれた方は気づかれたでしょうが、愛に満ちた呼びかけが実に多いのです。例えば次のようです。
「私の子どもたち」(2:1, 12)、「父たち」(2:13, 14)、「若者たち」(2:13, 14)、「幼子たち」(2:14) , 等とヨハネはさまざまな呼びかけをしました。
- ・ 著者ヨハネは、キリストの家族である愛する兄弟姉妹を思い浮かべ、彼らに対してさまざまな呼びかけをしました。そして彼らにどのような内容を話し始めたのでしょうか。今日のテキストも、その呼びかけから始まります。
2:1 私の子どもたち。私がこれらのことを書き送るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。しかし、もしだれかが罪を犯したなら、私たちには、御父の前でとりなしてくださる方、義なるイエス・キリストがおられます。

- ・神は私たち1人1人を大事な1人の人間として、そして神の家族の一員として呼んでくださいます。なんとという幸いでしょうか。そこで、もし許されるならば、自分の氏名をそこに置いてみてはいかがでしょう。神は私の氏名を呼び、何をお語りくださるのでしょうか。それが本日の説教主題「愛する子どもたちへの言葉」です。 2点

大切なポイント

1. 罪を犯さないように

1) とりなしてくださるお方

- ・まず、始めの言葉は「罪を犯さないようになる」ということです。罪を犯した後に、それに気づいて、神に告白し赦していただけることは本当に大きな恵みです。
- ・しかし、そうなる前に、罪に勝ち正しく行動できるようになることは、もっと大きな恵みです。それは神との交わりが、それを可能にしてくれます。
- ・しかし、現実の私たちはどうでしょうか。日々の歩みの中で失敗をすることがあります。正しく歩もうとする人ほど、敏感な良心を持っていますから、自分自身がよく分かります。自分の愛のなさ、心の醜さ、冷たい言葉などに心を痛めます。
- ・あるいは他人から、とくに自分の親しい人から「お前はそれでもクリスチャンか」と言われたりすると、気落ちしてしまいます。「あなたは教会に行っているのに、何も変わっていないではないか」と言われ、気落ちします。元気がある時は反発してしまうこともあります。
- ・でも、反発できないほど弱い時もあります。あるいは、それが自分の弱さであると認め、本当に気を落としてしまうこともあります。皆さんは、いかがでしょうか。
- ・しかし、聖書を開きますと、あの偉大なパウロでさえも同じように悩んでことを知ります。そして、彼は次のように述べました。

ローマ人への手紙7章

7:24 私は本当にみじめな人間です。だれがこの死のからだから、私を救い出してくれるのでしょうか。

7:25:私たちの主イエス・キリストを通して、神に感謝します。

- ・彼はみじめな自分を救ってくださるお方は、主イエス・キリストと言いました。そして何よりも主イエスに感謝しました。
- ・第1ヨハネの手紙の著者ヨハネもこう言いました。

2:1 しかし、もしだれかが罪を犯したなら、私たちには、御父の前でとりなしてくださる方、義なるイエス・キリストがおられます。

- 皆さん。これはこの世の人間社会と全く逆の主張です。人間社会では、それまでは立派な人間として評価されていた人でも、ひとたび罪を犯しているのを見つけれたら放り出されます。しかし、神は違います。私たちをとりなしてくださるのです。
- ですから、私たちは罪を犯してもよいというわけではありません。いいえ、とりなしのお方の力をいただき、もう罪を犯さないように成長することが大切です。

2) 真にとりなしてくださるお方

- 2章1節は、新共同訳聖書では次のように訳されています。
2:1たとえ罪を犯しても、御父のもとに弁護者、正しい方、イエス・キリストがおられます。
- ヨハネは、ヨハネの福音書14章で次のように言いました。
14:16 そしてわたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてください。
- ここで表れている「とりなしてくださる方」、「弁護者」、「助け主」と言われるお方は、同一の聖霊なるお方を指しています。聖霊は「弁護してくださる方」（ギリシャ語で parakletos:パラクレートス）という意味です。人間は罪を犯した時こそ、助け主が必要です。
- 私たち神を信じる者は、イエス・キリストの十字架の御血を通して神の子とされました。その神の子には、聖霊なるお方がともにいてくださいます。それは神を信じる者に与えられた、すばらしい特権であります。
- ですから、私たちはまず罪を犯さないように歩むべきです。
しかし自力では難しいその歩みを、神はもう一人の助け主である聖霊を、正しい方、イエス・キリストを与えてくださっています。神との交わりにおいて、神の子は罪を犯さないように導いてくださいます。罪から守られるよう、先導してくださいます。詩篇作者は次のように歌いました。

詩篇119篇

19:11 わたしはあなたのみことばを心に蓄えます。あなたの前に罪あるものとならないために。

- ・みことばが聖霊ともに働いてくださると、罪の道に入る誘惑から守ってくださいます。ところで、ヨハネは私たちを天父の前で弁護してくださるお方は2人いると記しました。
2:1 たとえ罪を犯しても、御父のもとに弁護者、正しい方、イエス・キリストがおられます。
- ・それは「弁護者」（パラクレートス）である「聖霊」と、イエス・キリストです。私たちには2人の弁護してくださる方がいます。なんといい幸いではありませんか。

2. キリストの弁護

- ・まず、私たちが覚えなければならないことがあります。それは次のことです。仮に日本社会において、人が罪を犯して裁判の席に着くとします。そうすると、希望すれば被告側に弁護士がついて、情状酌量を訴えてくれます。
- ・しかし、私たちに情状は全くありません。なぜなら、私たちは明らかに神の前に罪を犯した者であるからです。その罪に対する神の審判は正しく、死に値するものです。
- ・しかしイエス・キリストは義であるお方です。キリストが弁護してくださるのは、ご自身が私たちの「宥めささげ物」となってくださったからです。この十字架のみわざを、まず覚えてください。

1) 宥めのささげ物

4:10 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。 第1ヨハネ

- ・ では、「宥めのささげ物」とは、いったい何でしょうか？
神の本性は「聖」であり「義」です。したがって、神は罪や不義を認められませんし受け入れられません。神のおられる所、神の国には全く釣り合わないからです。そればかりか、神は罪に対して怒りを覚えて必ず罰せられるお方です。
- ・神のそのような怒りを宥めるための供え物が、旧約聖書時代には、動物がいけにえとして捧げられました。神は、犠牲の動物が祭壇に捧げられ、焼かれた香りが天に届くのをご覧になり、その罪を赦されました。それが「宥めのささげ物」でした。
- ・しかし、愛である神は動物ではなく、ご自身の御子イエス・キリストを「宥めのささげ物」として与えてくださいました。傷のない完全な子羊、御子イ

イエス・キリストが、「宥めのささげ物」として、一度だけ十字架である祭壇にささげられたことにより、神は罪を赦す道を成就してくださいました。

- ・聖書は次のように述べています。 ヘブル人への手紙

7:27 イエスは、ほかの大祭司たちのように、まず自分の罪のために、次に民の罪のために、毎日いけにえを献げる必要はありません。イエスは自分自身を献げ、ただ一度でそのことを成し遂げられたからです。ヘブル

9:26 しかし今、キリストはただ一度だけ、世々の終わりに、ご自分をいけにえとして罪を取り除くために現れてくださいました。 ヘブル

- ・ですから、キリストの十字架は、私たちに対する神の怒りを御子イエス・キリストが私たちの代わりに受けてくださったことを表しています。キリストの十字架は、罪のすさまじさ、とその結果の恐ろしさを表しています。
- ・神の御子イエス・キリストは罪を負ってくださり、代わりに十字架についてくださいました（神の愛）。キリストの十字架は、神の義と神の愛がひとつとなって現れた姿でした。

2) イエスの十字架

- ・ですから、キリスト・イエスが私たちを弁護してくださるのは、神の御子イエス・キリストが神の「宥めのささげ物」となってくださった事実に基づいています。

- ・ヘブル人への手紙は次のように述べています。

10:10 このみこころにしたがって、イエス・キリストのからだは、ただ一度だけ献げられたことにより、私たちは聖なるものとされています。

ヘブル

- ・そうです。天父神はイエス・キリストの十字架を通して、私たちを聖なる者として見てくださいています。なんという幸いでしょうか。不完全で過ちをたびたび犯してしまうような小さな者を、キリストの十字架を通して、神の子と見てくださいています。なんという幸いではありませんか。

『例 話』

- ・戦争は人を本当に不幸にします。現在、ウクライナとロシアとの戦争が行われています。それは実な不幸な戦いで多数の方がたが不幸になっています。
- ・日本もかつて誤った戦争をしました。そしてアジアの国々と人々に多大な迷惑をかけてしまいました。それは多くの場合、心の傷となり、いつまでも残っています。
- ・しばらく前でしたが、私は米国ロスアンジェルスで集会奉仕をしました。

- その時、主がともにいてくださり幸いな集いでした。集会後、一人のご婦人が私をご自分の家にお誘いくださいました。単に招待して下さったのではなく、婦人は半ば強制的に強い語調で私を自宅に連れていきました。
- 彼女は米国籍の韓国人でした。家の居間に通された私に、彼女は壁にかけられた顔写真を指して「この人は誰か分かりますか？」と尋ねました。それは彼女のお父さんの顔写真でした。そして彼女は語り始めました。
 - 彼女のお父さんは韓国で小学校の校長で、立派な方でした。当時、日本は韓国を植民地化し、神社崇拝を強制していました。クリスチャンであったお父さんは、それを断じて拒否しました。すると日本人兵士が来て、硬い棒でお父さんを激しくたたき始めました。その結果、腕が折れてしまうほどでした。
 - その後戦争は終わり、お父さんは葬られました（土葬）。そしてしばらくしてから、遺骨を別の場所に移すために土を掘り起こしたところ、お父さんの両腕骨の太さが違っていました。それほどひどく打ち叩かれたからでした。
 - そのようなことから、彼女は言いました。「日本人が何度謝られても、私は決して赦すことはできませんでした・・・」と。私は30年以上も、そのように日本人を赦せない思いでいました。しかし、今日神様は私にはっきりとお語りくださいました。「赦しなさい」と。明らかに、聖霊が彼女に臨んでくださいました。
 - 彼女は涙を流しながら悔い改めの祈りをされました。そして、「日本人を赦します！」と言われました。私も同じように涙を流していました。それは私の生涯で忘れることができない経験でした。
 - 国家の過ち、人の過ちを赦すことは、本当に困難なことです。しかし聖霊は彼女を助けられました。
- 皆さん！ 私たちも神の前で赦されない過ちを犯したものです。しかし、神は「宥めのささげ物」となられたイエス・キリストを通して、私たちの罪を許してくださいました。そして、私たちを聖なるものと見てくだっています。
- 10:10 このみこころにしたがって、イエス・キリストのからだは、ただ一度だけ献げられたことにより、私たちは聖なるものとされています。
- へブル
- なんという赦し。そして神の恵みでしょうか。ヨハネはさらに、キリストの「宥めのささげ物」は、全世界の信じるすべての人に対して力があると述べました。

2:2 この方こそ、私たちの罪のための、いや、私たちの罪だけでなく、世全体の罪のための宥めのささげ物です。

ま と め

主 題：「愛する子どもたちへの言葉」

—イエスの十字架—

- ・ 今日も、主は私たちにお語りくださいました。感謝。
使徒ヨハネは第2章のはじめで、「私の愛する子どもたち」と呼びかけました。愛に満ちたヨハネの呼びかけの言葉でした。それは彼の霊の子どもたちに向けた言葉でした。
- ・ では、彼は何を呼びかけたのでしょうか？
2:1 私の子どもたち。私がこれらのことを書き送るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。しかし、もしだれかが罪を犯したなら、私たちには、御父の前でとりなしてくださる方、義なるイエス・キリストがおられます。
- ・ 私たちは今日、次の2点を覚えます。
 1. あなたがたが罪を犯さないようになるためです。
 2. もしだれかが罪を犯したなら、私たちには、御父の前でとりなしてくださる方、義なるイエス・キリストがおられます。
- ・ 主イエス・キリストの十字架を通して、私たちも神の子とされました。そして聖なる者とされました。それはイエス・キリストが「宥めのささげ物」となってくださったからでした。 ヨハネは言いました。
4:10 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。 第1ヨハネ
- ・ 私たちは今朝、この大いなる神にどのように応答する者でしょうか。

● God bless you!